令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【指扇北小学校】

学力向上
アクションマップ

① 今年度の目標と学力向上策

重点的に育成する資質・能力	(1)自主的に学び方を選びながら学び続けることができる資質・能力 (2)他者とのかかわりながら、自分の考えを伝えることができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)到達目標などを自分で決め、自分で振り返る授業の実施。【各単元の中で3回以上】 (2)友達に答えの求め方や自分の考えについて筋道を立てて説明する時間の設定。【各単元の中で1回以上】

② 全国学力・学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	・国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項、特に漢字の定着に課題がみられた。解答類型と反応率をみると、送り仮名や単語の一部が書けない児童が多かった。無回答率も多かった。引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して記述する問題にも課題がみられた。解答類型と反応率をみると、複数の条件に合わせて書くことができない児童が多かった。 ・算数では、データの活用の二次元の表やグラフから条件に合う数を読み取ることと、答えを出した理由を数や式、言葉を用いて記述する問題に課題がみられた。解答類型と反応率をみると、それぞれの表やグラフの数値などが何を表しているのかを捉えられていない児童多かった。 ・自主的に学び方を選びながら学び続けることができる資質・能力と関連する児童質問「「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。」の肯定的回答が約9割であった。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	・自分なりの考えをもつことはできているが、根拠を明確にして伝えたり、他者に分かりやすく説明したりすることは、引き続き課題がみられる。 ・多くの児童が、主体的に学習を調整することができている。

③ 中間評価

学力向上策の実施状況	評価(※) B	学力向上策(1)・(2)ともに、8割以上の教員がいずれかの単元で実施することができた((1)87.3%、(2)83.6%)。 (1)の「目標設定・振り返り」の取組については、約67.3%の教員が児童の学習改善に「効果があった」と実感している。特に低学年等における効果的な振り返りの工夫や、振り返りの質の向上に向けたモデル提示・ルールの定着を引き続き図っていく。 (2)の「筋道を立てて説明する時間」については、約74.5%の教員が児童の理解向上に「効果があった」と感じており、成果が見られる。一方で、「説明する力の育成」や「指導時間の確保」を課題と感じている教員も多いため、発問の工夫や指導の手引き・話型の提示など、具体的な支援方法の共有を進めていく。
⇓		
学力向上策の見直し	（変更なし）	

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④ さいたま市学習状況調査結果の分析

特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤ 年度末評価

学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）